

演劇・映画の
専門図書館

松竹大谷図書館ニュースレター

■ No. 269(2020年8月) ■

令和2年8月7日発行

■ 松竹大谷図書館は予約制での開館を継続しております ■

当館は6月1日(月)より、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご来館は「予約制」とさせて頂いております。

《ご利用について》

- 開館時間 10:00～16:00 (短縮しております)
- ご来館前日までに、お電話でのご予約をお願い致します。
松竹大谷図書館 03(5550)1694(平日 10時～16時)

今後、開館日時やご利用方法につきましては、状況の変化にともない変更の可能性があります。
随時お電話でのご確認や、当館の[HP](http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/)、[Facebook](https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/)の更新をご確認下さい。

- ・公式HP <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>
- ・松竹大谷図書館 Facebook
<https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/>

ご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



閲覧室カウンターに設置したビニールシート(左)と段ボールパーテーション(右)

》》 お知らせ

■まちかど展示館で学ぶ「人に話したくなる！中央区の歴史文化と技」講座のお知らせ

令和2年度の中央区の文化講座で、中央区まちかど展示館3館の講師が、三週にわたって中央区の歴史文化についてお話いたします。当館は第一回「芝居に縁の深い中央区、番付と筋書の今と昔」(9/17)を担当します。

中央区は芝居に縁の深い地域で、江戸時代には江戸三座とよばれた中村座、市村座、森田座が幕府の公認のもと歌舞伎の興行を行っていました。現在も歌舞伎座を中心に、新橋演舞場、明治座、三越劇場など、名だたる劇場が長年にわたり歌舞伎の公演を打っています。当日は当館スタッフが、所蔵する中央区の劇場の番付と筋書について、お話いたします。

- 日時:第1回 9/17(木)「芝居に縁の深い中央区、番付と筋書の今と昔」
公益財団法人松竹大谷図書館
- 第2回 9/24(木)「江戸べっ甲と粋な和装小物の魅力」
銀座かなめ屋・かんざし和装小物展示館
(株式会社かなめ屋柴田)
- 第3回 10/1(木)「日々の生活を彩る下町の染物」
染物展示館・虎の檻(有限会社高虎商店)
- 時間:各回 18:45～20:15
場所:日本橋公会堂
対象:中央区内在住・在勤者(定員 40名)

申込は往復はがき 8/20(木)必着で中央区文化・国際交流振興協会まで。
詳しくはコチラ <https://www.chuo-ci.jp/events/event/5058/>



■国立映画アーカイブ企画展「松竹第一主義 松竹映画の100年」レポート

いよいよ残すところあと一ヶ月をきった国立映画アーカイブ企画展「松竹第一主義 松竹映画の100年」。皆さまはもうご覧になりましたか？ 今回は会場の様子をお伝えいたします。

常設展の「NFAJ コレクションでみる 日本映画の歴史」のエリアを通り抜けると、すぐ正面に「松竹第一主義 松竹映画の100年」と書かれたパネルがあらわれます。展示は第1章から第5章に分かれ、松竹映画が誕生した大正時代から令和まで、時系列に資料が並んでいます。第1章は「松竹キネマの誕生 蒲田と下加茂」。1920年創業の松竹キネマのはじまりを伝える資料が並びこのコーナーでは、最初に、当館からの提供資料である大谷竹次郎の肖像写真が目にはいります。他に4点の当館提供資料が展示されており、松竹キネマ合名社第1回作品の『島の女』が1920年12月に京都明治座で公開されたときのプログラム、松竹キネマ研究所第一回作品で近代演劇の革新者と言われる劇作家・演出家の小山内薫が指導・出演した『路上の霊魂』(1921年)、そして『琵琶歌』(1921年賀古残夢監督)、『母』(1923年野村芳亭監督)の台本を見ることができます。大船に移転するまで16年にわたって隆盛を極めた松竹蒲田撮影所、そして関東大震災をきっかけに開所し、京都の地での松竹映画の礎となった京都下加茂撮影所に関する資料を中心とした構成となっており、松竹直営の劇場が配布していたプログラム、松竹映画専門のスタジオ雑誌、当時流行した小唄映画の主題歌のSPレコードや楽譜など、多彩な資料が展示されています。

第2章の「“大船調”の誕生と戦争の時代」では、1936年1月に蒲田から移転し、伝統を引き継いだ大船撮影所が、『愛染かつら』(1938-39年野村浩将監督)など情感溢れる“大船調”映画を次々と生み出した時代と戦時期の資料が並んでいます。雑誌「松竹産業報国会々報」(15号,1941年9月松竹産業報国会)は当館の展示提供資料で、産業報国会とは戦時中、各企業内に設立された官製労働者組織です。また、他には松竹大船撮影所の俳優たちのサインが寄せ書きされた日章旗が目を引きまします。日の丸の周囲にサインがほぼ隙間なく書かれており、田中絹代、笠智衆など、ご存知の俳優の名前を見つけることができます。

第3章は「戦後の飛躍期の名作・話題作」と題され、戦後の黄金期の松竹映画の資料が並んでいます。名匠木下恵介による日本初の長編カラー作品『カルメン故郷に帰る』(1951年)のパンフレット、小津安二郎監督の傑作『東京物語』(1953年)と空前のブームとなった『君の名は』(1953-54年大庭秀雄監督)のポスターなど、誰もが知る名作の資料を見ることができます。注目は小津安二郎監督の遺作『秋刀魚の味』(1962年)の資料です。美術監督濱田辰雄の助手を務めた荻原重夫旧蔵のセット写真アルバム(当館所蔵)と、(公財)川喜多記念映画文化財団所蔵の絵コンテ帖を並べて展示してあります。有名なバーでの敬礼シーンや燕来軒のシーンに関する記述が、アルバムと絵コンテ帖、それぞれの資料にあることが確認できます。展示ケース左側では4作品の予告篇映像が流れており、『秋刀魚の味』の予告編には敬礼のシーンも入っていますので、資料と一緒にご覧ください。また、松竹の「社報」(18号,1951年9月松竹株式会社[当館提供])には「松竹三十年を語る(座談会)大船の巻(一)蒲田撮影所創設当時よりの話の数々 永年勤続者拾名を囲んで聴く」と題した連載の初回が掲載され、蒲田撮影所時代を知る松竹の社員たちの興味深い談話が載っています。

第4章「新しい“伝統”を求めて」のコーナーは、社会への積極的な問題提起と大胆で熱を持った新しい作風が若い監督たちによってもたらされた1960年代の紹介からはじまります。これらの映画が生まれるきっかけとなったシナリオ同人雑誌「7人」(1号,1956年[当館所蔵])は、松竹大船撮影所助監督時代の大島渚が吉田喜重、田村孟、後に作家となった高橋治ら7人で創刊した同人雑誌です。この「7人」と、大島渚のデビュー作で、会社の意向で『愛と希望の街』(1959年)と改題された『鳩を売る少年(改題「光と雲」)』の台本(準備稿)が並んで展示されています。大島渚らが革新をもたらした後、長年にわたり松竹を牽引する国民的人気シリーズとなる山田洋次監督の『男はつらいよ』(1969年)が誕生、当時のポスターと試写状が展示されています。このコーナーでは他に、先日惜しくも訃報が伝えられた森崎東監督の『女は度胸』(1969年)、ミステリーの傑作を多く生んだ野村芳太郎監督の『砂の器』(1974年)など名作のポスターが並んでいます。また海外への紹介のために作成された国際版ポスターは、国内用のポスターとは異なったデザインで作られており、カンヌ国際映画祭審査員特別賞を受賞した小林正樹監督の『切腹』(1962年)など、さまざまな海外用のポスターが展示されています。

第5章「松竹映画の現在 平成から令和へ」では、『その男、凶暴につき』(1989年)で衝撃のデビューを飾った北野武監督のアメリカ公開版ポスターや、第81回アカデミー賞で日本映画としてはじめて外国語映画賞を受賞した滝田洋二郎監督の『おくりびと』(2008年)の国際版ポスターなど、平成の30年を彩った作品の資料が並びます。なかでも平成期の松竹を代表する『釣りバカ日誌』シリーズからは、鈴木建設の社名入封筒や社員証など、さまざまな小道具が展示されています。支給明細書は当時松竹で使用されていたデザインをモデルにしたもので、細部まで凝った作りです。そして主人公ハマちゃんの勤務評定票は、釣りバカ日誌ファンには大変興味深い資料ではないでしょうか。ハマちゃんの勤務状況や仕事の評価などが記されており、映画でのハマちゃんの数々の行動ゆえにこのような出勤状況になるのだな、ということがよくわかります。仕事の評価は10項目で1から100で評価され、ハマちゃんはなんと2項目で100がありますが、その他は…？是非会場で確認してみてください。最後にひときわ目を引くのは、松竹衣裳株式会社所蔵の『豪姫』(1992年勅使河原宏監督)の銀色に輝く打掛の衣裳で、横に展示されているポスターの宮沢りえが羽織っている実物が展示されています。

100年間にわたって途切れることなく、常に第一線で各時代を象徴する作品を世に送り出し続けた松竹の企画展。松竹映画を愛する皆さまにとって大変見応えある展示となっていますので、是非ご覧ください。また、展内掲示の解説文に併記されている年表には、松竹大谷図書館について記述がある箇所がありますので、ご観覧の際は探してみてください。国立映画アーカイブ2階長瀬記念ホール OZUにて開催中の企画上映で、松竹映画を鑑賞してから展示を見ると、なお一層楽しめますので、映画も併せてどうぞ！

展示は8月30日までとなっております。お出かけ前に必ず国立映画アーカイブのHPで、開館状況や「ご来館にあたってのお願い」をご確認下さい。

■開催情報■

企画展『松竹第一主義 松竹映画の100年』

会場:国立映画アーカイブ 展示室(7階)/会期:2020年7月7日(火)ー2020年8月30日(日)/開室時間:11:00am-6:30pm(入室は6:00pmまで)/休室日:月曜日/観覧料:一般250円/大学生130円/シニア・高校生以下及び18歳未満、障害者(付添者は原則1名まで)※料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。
 詳細はこちら:<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/shochiku2020/>

企画上映『松竹第一主義 松竹映画の100年』

期間:2020年7月7日(火)ー9月6日(日)/会期:会期中の休館日:月曜日/会場:長瀬記念ホール OZU(国立映画アーカイブ2階)/定員:111名(各回入替制・全席指定席)/弁士・伴奏付上映のある日は105名 ※前売指定席券のみ
 詳細はこちら:<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/shochiku202006/>

≫≫ 資料提供 (2020年6月~7月)

※許可を得た方のみ掲載しております

- 【展示】企画展『松竹第一主義 松竹映画の100年』2020年7月7日~8月30日国立映画アーカイブ 松竹映画関係資料(台本、プログラム、スクラップ、雑誌、スチール写真等)を提供
 【出版】『歌舞伎特選DVDコレクション第21号』2020年6月3日アセット・コレクションズ・ジャパン マガジンの連載「松竹大谷図書館名品展」に書画帖『余沫集』を提供/『歌舞伎特選DVDコレクション第23号』2020年7月1日アセット・コレクションズ・ジャパン マガジンの連載「松竹大谷図書館名品展」に義太夫正本『国性爺合戦』を提供/『歌舞伎特選DVDコレクション第25号』2020年7月29日アセット・コレクションズ・ジャパン マガジンの連載「松竹大谷図書館名品展」に写真集『歌舞伎衣裳』を提供/『渡辺保の観劇ノート』2020年7月28日読売新聞夕刊 モスクワ芸術座プログラム、雑誌『新劇』を提供
 【放送】『英雄たちの選択「名優誕生!九代目市川團十郎 新時代に挑む」』2020年6月17日NHKBSプレミアム 歌舞伎映画『紅葉狩』を提供/『ダウンタウンう 本音でハシゴ酒』2020年6月29日フジテレビ 六代目尾上菊五郎スチール写真『鏡獅子』『髪結新三』を提供

≫ 新着資料案内

新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 演劇雑誌 ■

『Confetti』2020年8月/『TICKETS GO!GO!』Vol.104/『the座』104号/『あぜくら』2020年4月号-7月号/『えんぶ』2020年8月号/『テアトロ』2020年7月号臨時増刊号演劇名鑑2021年度版,2020年8月号/『ミュージカル』2020年7月-8月号/『ラ・アルプ』2020年8月号/『ル・サンク』Vol.77/『演劇界』2020年8月-9月号/『演劇研究』43号/『演劇博物館報』Vol.116/『歌舞伎 研究と批評』(65)/『芸劇BUZZ』2020年7月-8月-9月号/『御園座演劇図書館 Newsletter』Vol.28/『国立演芸場公演ガイド』令和2年8月号/『早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点 news letter』10号/『日本演出者協会協会誌D(ディー)』24号/『日本芸術文化振興会ニュース』2020年7月号,8月号/『日本舞踊』72巻8月号

■ 映画雑誌 ■

『FLIX』2020年8月号/『NFAJ ニューズレター』8号,9号/『SCREEN』2020年9月号/『TVガイド』2020年4/10号,4/17号,4/24号,5/1号,5/8号,5/15号,5/29号,6/5号,6/12号,6/19号,6/26号,7/3号,7/10号,7/17号,7/24号/『おとなのデジタルTVナビ』2020年9月号/『キネマ旬報』増刊キネマ旬報NEXT Vol.29,Vol.30,Vol.33,2020年8月上旬号,2020年8月下旬号/『シナリオ』2020年9月号/『シナリオ教室』2020年5月号-8月号/『ドラマ』2020年8月号/『ロケーションジャパン』2020年8月号/『映画テレビ技術』2020年8月号/『映画時報』2020年6月号/『映画秘宝』2020年6月号-8月号/『映画論叢』54号/『松竹[社報]』218号/『日経エンタテインメント!』2020年8月号/『日本アカデミー賞』2020年第43回/『芸術学研究』30号

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『私がモテてどうすんだ』	○	○	○		○
『ブリット=マリーの幸せなひとりだち』		○	○		

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 映画プログラム ■ (順不同)

『グランド・ジャーニー』『劇場』『海底47m 古代マヤの死の迷宮』『ひまわり』『葛城事件』『楽園』『星ガ丘ワンダーランド』『幕が上がる』『さらば あぶない刑事』『サブイボマスク』『女が眠る時』『エミアビのはじまりとはじまり』『無伴奏』『森山中教習所』『火Hee』『ヒーローマニア 生活』『ふきげんな過去』『永い言い訳』『猫なんかよんでもこない。』『探偵ミタライの事件簿 星籠(せいろ)の海』『劇場版シティーハンター (新宿プライベート・アイズ)』『花芯』『蜜のあわれ』

新規登録資料案内

新しく登録した資料をご案内いたします

■ 書籍 ■ (順不同)

『演劇年鑑 2020』『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集 53 傾情山姥都歳玉』『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集 54 敵討襤褸錦』『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集 55 茜染野中の隠井』『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集 56 入鹿大臣皇都諍』『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集 57 文武世継梅』『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集 58 遊君衣紋鑑』『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集 59 増補大仏殿 [バンダイノ] 礎』『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集 60 女舞釵紅楓』『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集 61 新板累物語』『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集 62 児源氏道中軍記』『河内阿呆鴉一代 鉄砲節夜ばなし』『邦楽鑑賞 上巻』『小唄の歴史 附歌詞解説』『舞臺藝術 演劇の実際と理論 増訂改刻版』『演劇の本質』『劇的想像力 演劇藝術への反省と考察』『芸人たちの芸能史』『演劇往来』『雑感 劇について』『戦後演劇の手帖 作家と時代と舞台をめぐる』『普門 FUMON HALL』『舞台装置の話』『明治文化史 9 音楽・演芸篇』『演劇(三省堂百科シリーズ 8)』『能から歌舞伎へ』『落語よもやま咄』『花柳章太郎句抄』『田園』『山参道』『町の音』『雪の音』『シェイクスピアの面白さ』『櫻の園・熊』『ギリシア悲劇 物語とその世界』『假名手本忠臣蔵 物語日本文学 29』『歌舞伎と新劇』『脇役誕生』『静臥雑記』『新派・遠きあし音 丸井不二夫聞書』『上方芸能 《観る側》の履歴書』『手さぐりの幸せ』

お知らせ

▼「新着資料案内」のうち「松竹系演劇公演資料」「他社演劇公演資料」は休載致します

■ 夏期特別整理休館のお知らせ ■

令和 2 年 8 月 15 日(土)より 8 月 30 日(日)まで
資料整理のため休館いたします

8 月 31 日(月)より開館いたします。

公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- 現在ご支援いただいている方々 (了承を得た方のみ掲載) 2020(令和 2)年 7 月にご支援いただきました法人・団体 (50音順・敬称略)

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

有限会社合同通信社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

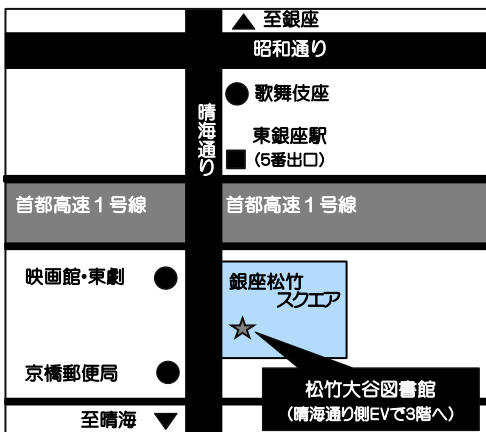
松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

どうもありがとうございます



編集・発行:公益財団法人 松竹大谷図書館

〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア3階 / Tel. 03-5550-1694

公式 HP ● <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>

公式 Facebook ● <https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/>

● 利用案内 ●

【開館時間】平日午前10時～午後 4 時(短縮しております) / 【休館日】土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期・夏期特別整理期間※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します / 【閲覧】館内閲覧のみ / 【入館料】無料 / 【コピーサービス】A4 1枚 白黒 50 円、カラー 150 円・B4 1枚 白黒 100 円、カラー 300 円 量が多い場合は翌開館日渡し、または郵送(送料は申込者負担) 但し、コピー不可の資料もあります

● 資料検索 ●

<https://opac315.libraryexpert.net/lib-shochiku-otani/>

● 交通案内 ●

東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分

東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

